

総務省  
財務省告示第 号  
経済産業省

特定高度情報通信技術活用システムの開発供給及び導入の促進に関する法律（令和二年法律第三十七号）  
第六条第一項の規定に基づき、特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等の促進に関する指針を次のように定め、同法の施行の日（令和二年八月三十一日）から施行する。

令和二年 月 日

総務大臣 高市 早苗

財務大臣 麻生 太郎

経済産業大臣 梶山 弘志

特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等の促進に関する指針

この指針は、特定高度情報通信技術活用システムの開発供給及び導入の促進に関する法律（以下「法」という。）第六条第一項の規定に基づき、特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等の促進に関する指針を定めるものである。なお、この指針において使用する用語は、法において使用する用語の例による。

第一 特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等の促進の意義及び基本的な方向に関する事項

一 特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等の促進の意義

情報通信技術の分野における技術革新が急速に進展する中、特定高度情報通信技術活用システムは、これからの社会の重要な基盤となることが見込まれる。当該システムについて、サイバーセキュリティを確保しつつ、安全・安心かつ早期の普及を図ることは、我が国における産業基盤の整備に加え、地方創生及び地域の課題解決の観点からも重要であり、国民生活の向上及び国民経済の健全な発展のために、特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等を促進することが必要である。また、国際的な取組との整合性も図りつつ、こうした措置の実施による安全・安心な特定高度情報通信技術活用システムの普及を進めることは、我が国の安全保障にも寄与するものである。

二 特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等の基本的な方向

特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等は、当該システムの安全性・信頼性及び相互接続性・相互運用性を確保しつつ、当該システムが安定的に供給されることを基本とし、我が国における特定高度情報通信技術活用システムの開発供給に係る産業の国際競争力の強化並びに特定高度情報通信技術活用システムの活用による新たな事業の創出及び事業の革新の促進に資することを旨とし、国及び

事業者が相互に密接な連携を図りつつ主体的かつ積極的に行うものとする。

## 第二 特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等に関する事項

第一に規定する意義を踏まえ、基本的な方向を実現するものとして、特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等に関する事項を定める。

一 法第二条第一項第一号に掲げる特定高度情報通信技術活用システム（以下「一号システム」という。

）の開発供給の内容

一号システムの開発供給の内容は、次の1及び2のいずれにも該当するものとする。

1 開発供給を行う一号システムの安全性及び信頼性確保のための対策が、次の(1)から(4)までのいずれにも該当すること。

(1) 開発供給を行う事業者において、サイバーセキュリティを確保するための規程を策定した上で、

開発供給を行う一号システムのサイバーセキュリティに係る脆弱性の評価を行い、適切な対策が講じられていること。

(2) 開発供給を行う事業者において、開発供給した一号システムの導入を行う事業者が当該システム

のサイバーセキュリティを持続的に確保することを支援するために必要な体制が整備されていること。

- (3) 「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群（平成三十年度版）」、「IT調達に係る国の物品等又は役務の調達方針及び調達手続に関する申合せ（平成三十年十二月十日関係省庁申合せ）」並びに「第五世代移動通信システムの導入のための特定基地局の開設に関する指針（平成三十一年総務省告示第二十四号）」及び「ローカル5G導入に関するガイドライン（令和元年十二月総務省策定）」等に留意し、サプライチェーンリスク対応を含むサイバーセキュリティ対策が講じられていること。

- (4) 国際的な取組（プラハ5Gセキュリティ会議等）の考え方に基づき、開発供給を行う事業者の信頼性を確保するため、次のイからハまでのいずれにも該当すること。

イ 開発供給を行う事業者の所有関係及びガバナンスの透明性が確保されていること。

ロ 開発供給を行う事業者が、過去三年間の実績を含め、国際的に受け入れられた基準に反していないこと。

ハ 外国の法的環境等により開発供給の適切性が影響を受けるものでないこと。

2 開発供給を行う一号システムについて、O-RANアライアンスが定めるインターフェース仕様に基づき、準拠するなど、マルチベンダーによる相互接続性・相互運用性が確保されていること。

二 一号システムの開発供給の促進のための方策

一号システムの開発供給の促進を図るため、開発供給を行う一号システムの供給安定性確保のための対策は、次の1から3までのいずれにも該当するものとする。

1 開発供給を行う一号システムについて、サプライチェーンを含む必要な開発供給能力確保に関する計画並びに保守及び管理の方針が整備されていること。

2 一号システムの開発供給に係る事業継続性確保のため、事業継続計画が策定されていること。

3 一号システムを安定的に供給するため、当該システムの開発供給に係る国内関係法令を遵守すること。

三 一号システムの導入の内容

一号システムの導入の内容は、次の1から3までのいずれにも該当するものとする。

1 導入を行う一号システムの安全性及び信頼性確保のための対策が、次の(1)から(3)までのいずれにも該当すること。

(1) サイバーセキュリティ上の事案が発生した場合に、一号システム導入計画に係る事業を所管する省庁に対し、速やかに報告を行うための体制が整備されていること。

(2) サイバーセキュリティ上の事案が発生した場合に、関係主体に対して適切な情報共有を行うための体制が整備されていること。

(3) 全国5Gシステムにあつては、「第五世代移動通信システムの導入のための特定基地局の開設計画」の認定を受けて「第五世代移動通信システムの導入のための特定基地局の開設計画」に留意し、「ローカル5Gシステムにあつては、「ローカル5G導入に関するガイドライン」に留意し、サプライチェーンリスク対応を含むサイバーセキュリティ対策が講じられていること。

2 導入を行う一号システムについて、O-RANアライアンスが定めるインターフェース仕様に準拠するなど、マルチベンダーによる相互接続性・相互運用性が確保されていること。

3 導入を行う一号システムを構成する無線設備、交換設備及び伝送路設備（交換設備及び伝送路設備

については、ローカル5Gシステムに限る。）が、一号システム開発供給計画の認定を受けたものであること。

#### 四 一号システムの導入の促進のための方策

一号システムの導入の促進を図るため、導入を行う一号システムの供給安定性確保のための対策は、次の1及び2のいずれにも該当するものとする。

1 我が国における安定的な一号システムの導入を確保するため、当該システム導入に係る国内関係法令を遵守すること。

2 保守及び管理を適切に行うために必要な方針等が整備されていることを確認すること。

#### 五 法第二条第一項第二号に掲げる特定高度情報通信技術活用システム（以下「二号システム」という。）

##### の 開発供給の内容

二号システムの開発供給の内容は、次の1及び2のいずれにも該当するものとする。

1 開発供給を行う二号システムの安全性及び信頼性確保のための対策が、次の(1)から(4)までのいずれにも該当すること。

- (1) 開発供給を行う事業者において、サイバーセキュリティを確保するための規程を策定した上で、開発供給を行う二号システムのサイバーセキュリティに係る脆弱性の評価を行い、適切な対策が講じられていること。
- (2) 開発供給を行う事業者において、開発供給した二号システムの導入を行う事業者が当該システムのサイバーセキュリティを持続的に確保することを支援するために必要な体制が整備されていること。
- (3) 「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群（平成三十年度版）」におけるサプライチェーンリスク対策の内容と同等の対応を含むサイバーセキュリティ対策が講じられていること。
- (4) 開発供給を行う事業者の信頼性を確保するため、次のイからハまでのいずれにも該当すること。
  - イ 開発供給を行う事業者の所有関係及びガバナンスの透明性が確保されていること。
  - ロ 開発供給を行う事業者が、過去三年間の実績を含め、国際的に受け入れられた基準に反していないこと。
  - ハ 外国の法的環境等により開発供給の適切性が影響を受けるものでないこと。



2 開発供給を行う二号システムについて、他システムとの接続可能性のあるインターフェースを用いるなど、当該システムの相互接続性・相互運用性が確保されていること。

#### 六 二号システムの開発供給の促進のための方策

二号システムの開発供給の促進を図るため、開発供給を行う二号システムの供給安定性確保のための対策は、次の1から3までのいずれにも該当するものとする。

1 開発供給を行う二号システムについて、サプライチェーンを含む必要な開発供給能力確保に関する計画並びに保守及び管理の方針が整備されていること。

2 二号システムの開発供給に係る事業継続性確保のため、事業継続計画が策定されていること。

3 二号システムを安定的に供給するため、当該システムの開発供給に係る国内関係法令を遵守すること。

#### 七 二号システムの導入の内容

二号システムの導入の内容は、次の1から3までのいずれにも該当するものとする。

1 導入を行う二号システムの安全性及び信頼性確保のための対策が、次の(1)から(3)までのいずれにも

該当すること。

(1) サイバーセキュリティ上の事案が発生した場合に、二号システム導入計画に係る事業を所管する省庁に対し、速やかに報告を行うための体制が整備されていること。

(2) サイバーセキュリティ上の事案が発生した場合に、関係主体に対して適切な情報共有を行うための体制が整備されていること。

(3) 「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群（平成三十年度版）」におけるサブライチェーンリスク対策の内容と同等の対応を含むサイバーセキュリティ対策が講じられていること。

2 導入を行う二号システムについて、他システムとの接続可能性のあるインターフェースを用いるなど、当該システムの相互接続性・相互運用性が確保されていること。

3 導入を行う二号システムを構成する小型無人機及び操縦装置が、二号システム開発供給計画の認定を受けたものであること。

#### 八 二号システムの導入の促進のための方策

二号システムの導入の促進を図るため、導入を行う二号システムの供給安定性確保のための対策は、

次の1及び2のいずれにも該当するものとする。

1 我が国における安定的な二号システムの導入を確保するため、当該システム導入に係る国内関係法令を遵守すること。

2 保守及び管理を適切に行うために必要な方針等が整備されていることを確認すること。

九 特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等の促進に当たって配慮すべき事項

1 国は、特定高度情報通信技術活用システムの認定に当たり、中小企業者等も含めた幅広い事業者による開発供給等が促進されるよう、一号システム及び二号システムの特性等を考慮するとともに、認定開発供給事業者又は認定導入事業者が認定開発供給計画又は認定導入計画に従って特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等を行うために必要な資金の確保に努めるものとする。

2 国は、特定高度情報通信技術活用システムが様々な分野で地域の課題解決や地域経済の活性化に資することに鑑み、新たな事業の創出及び事業の革新の促進に資するよう、必要な措置を講じるよう努めるものとする。

3 国、独立行政法人、特殊法人、地方公共団体及び地方独立行政法人は、特定高度情報通信技術活用

システムの導入に当たり、特定高度情報通信技術活用システムの開発供給がサイバーセキュリティを確保しつつ適切に行われることに最大限の配慮をするよう努めるものとする。

第三 特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等を行うために必要な資金の調達の円滑化に関して株式会社日本政策金融公庫及び指定金融機関が果たすべき役割に関する事項

一 特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等に係る低利・長期資金調達支援制度の趣旨・目的

特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等は、情報通信インフラである当該システムの投資回収は期間を要することから、大規模かつ中長期の資金が必要であるが、民間金融機関だけでは十分な資金供給を行うことが困難である。このため、民間金融機関の機能を補完する範囲内で、特定高度情報通信技術活用システム開発供給計画又は特定高度情報通信技術活用システム導入計画の認定を受けた事業者（以下「認定事業者」という。）に対し、株式会社日本政策金融公庫（以下「公庫」という。）から指定金融機関を通じて低利・長期の資金を供給する。資金の貸付けを行うに当たっては、次の1及び2に該当することを要件とする。

1 認定事業者が認定開発供給計画又は認定導入計画に従って特定高度情報通信技術活用システムの開

発供給等を行うために必要な資金の額が原則として五十億円以上であること。

2 当該資金の貸付期間が五年以上であること。

二 公庫及び指定金融機関が資金の貸付けの業務を行う上で配慮すべき事項

1 認定事業者が指定金融機関に対して、認定開発供給計画又は認定導入計画に従って特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等を行うために必要な資金について借入れの申請を行った場合において、当該指定金融機関は、業務を統括する部署を置くとともに、認定事業者の財務状況、資金の使途、返済財源等を的確に把握することを可能とするための適正かつ確実な体制及び方法により、事業の内容を確認し、与信審査を行い、併せて当該認定開発供給計画又は認定導入計画が主務大臣の認定を受けていることを確認した上で、貸付けの決定を行うこととする。

2 指定金融機関による貸付けは、他の金融機関等（特定高度情報通信技術活用システムの開発供給及び導入の促進に関する法律施行令（令和二年政令第 号）第二条に規定する金融機関の他、認定事業者に対する資金供給を行う者をいう。以下同じ。）と協調して実施するものとする。ただし、対象となる事業計画の性質に鑑み、他の金融機関等が貸付け等の資金供給を行うことに支障がある場合

はこの限りでない。

3 指定金融機関による貸付けの利率は、直近の金融情勢等に応じ、その原資が財政投融資資金であることを踏まえて定めるものとする。

4 指定金融機関が確認・審査を行った結果、貸付けの決定を行う場合には、当該指定金融機関は、公庫に対して、必要な資金を当該指定金融機関に貸し付けるよう、申請するものとする。

5 公庫は、指定金融機関から貸付けの申請を受けた場合には、当該指定金融機関に対して、速やかに、必要な資金の貸付けを行うことができるよう、貸付けの条件その他基本的な事項をあらかじめ定める等の必要な措置を講じるものとする。この場合において、公庫による指定金融機関に対する貸付けの利率は、国から公庫に対する財政投融資資金の貸付けの利率と同一の率とする。

6 公庫及び指定金融機関は、認定開発供給計画又は認定導入計画に従って行われる特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等が適正かつ確実に実施されるよう、密接に連携して資金の貸付けを行うものとする。

三 その他特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等に関する重要事項

1 主務大臣は、認定事業者に対して、適切かつ確実に低利・長期の資金が供給されるよう、他の主務大臣、公庫及び指定金融機関と密接に連携することとする。とりわけ、各年度に貸し付けられる資金の累計額が政府関係機関予算予算総則に記載されている額を上回り、必要な支援が実施できなくなることはないよう、経済産業大臣を中心に必要な調整を行うこととする。

2 主務大臣は、特定高度情報通信技術活用システムの開発供給等に係る低利・長期資金調達支援制度が、民間金融機関の機能を補完する範囲内で実施されるものを踏まえ、指定金融機関による貸付けが不適切に市場を歪めることがないよう、必要な指導・監督を行うものとする。